令和５年度コミュニティ・スクール
第２回津久井高等学校学校運営協議会
令和５年 12 月 14 日（木）９：50～

参加者
・熊坂（校長）
・加藤　麻里子（PTA 会長）・新開よしみ（東京家政学院大学教授）
・山﨑真理（小山中学校校長）・片平弘美（津久井支援学校校長）・事務局（記録）林

○「総合的な探究に時間」公開研究授業の参観を実施

熊坂：本日は、司会進行も含めて私のほうで会をすすめさせていただきます。
まずは皆様に見ていただきました「総合的な探究の時間」の発表等についてご意見・ご感想いただければと思います。加藤様お願いいたします。
加藤：昨年も参加させていただきました。昨年は、２回の授業見学、発表を見ました。昨年度よりも生徒の発表が上手になっていたと感じました。生徒が発表に慣れてきた様子が見受けられました。とてもスムーズだし、心に残るものがありました。ただ、昨年のテーマとほぼ入れ替わっていたのは少し残念だった気がします。洋服集めは昨年から引き続けていたようですが、今後は昨年のやり残しを引き継いだり、違う視点で同じテーマを深めてもいいのかなと思います。
熊坂：実は昨年は、とにかくやろうということで走り出した。２年目は、まず１学期に基礎的な活動の方法や発表方法などの探究のベースを学んでから始めました。そのような助走期間があった成果が発表の様子にも影響を与えたのだと思います。片平様いかがでしたか？
片平：地域探究のテーマとして生徒が主体的に考えるところやプロセスを大事にするということを踏まえて見させていただいた。PR 動画の授業も先生が得意なこともあって非常に考えられた発表だった。ICT 機器の活用がすすんでいた。みんなが一生懸命発表に見入っていたのが素晴らしかった。サウナの発表も画像とか主体的に引き出しておこなっていたことが分かった。コンパクトに上手にまとめられていた。また、来てくださっていた社長へのリスペクトも感じたし、今成功している方の影響力の強さを生徒が感じ取っていたことにも感心した。
相模湖地域の歴史は、調べているところが興味深く、行ってみたいなと思わせるようなまとめ方がありました。謙虚な感じではあった。先ほど見学者が来るのを待っていた生徒がいたとのことで、さっとすべての教室を回れればよかったと思いました。
熊坂：ありがとうございます。山﨑様お願いいたします。
山﨑：昨年度の中間発表は模造紙だったのでそう考えると ICT 化が進んだなと思いました。サウナの発表は社長さんへのリスペクトや津久井愛を感じました。それが大きな柱のように感じました。中学校もいろんなやり方でやっているが、好きにやっていいよというのは難

しく感じています。本校では３年間テーマを決めて、福祉からスタートして平和学習へと移行していく。子どもたちは最後はそれを世界平和まですすめていく。
今日は津久井愛を感じました。もしできるのであれば縦につながっていくことが課題なのかなと思います。２年生が１年生につなげるようにできるといい。スタート０地点からスタート。津久井高校から始まった文房具を送る事業をきっかけに中学校でも取り組みがつながった経緯がありますので、そのようなつながりがおもしろいと思います。
新開：今回初めて見させていただきましたが大変興味深かったです。
サウナの発表については、お風呂の話をしているのに勇気をもらったことにつながる不思議な発表だった。やればできると思ったなどメンタル面に及んでいたのがおもしろかった。ピクトグラムも個人で考えたひとりひとりが考えていて、みんなが役に立つことにつながっていることが良いなと思いました。PR 大作戦も継続していけばこれからも楽しい取り組みになるのではないかと思いました。調べ学習も個性的な特徴があるテーマを見つけていて、興味深かった。先生方の指導も手寧なやりとりとりがみられて素晴らしいと思いました。
熊坂：来年につなげさせていただきたいと思いました。継続性を持たせることなどは来年度以降に生かしていきたいと思います。テーマの見つけかたや探究の方法もまだまだブラッシュアップしていきたいと思います。学校として、難しさをかんじる部分もあり、担当する職員のモチベーションをどうしていくかも課題になっていくと思っています。山﨑様、中学校ではどうですか？様々な職員もいるし、学校の柱としていきたいので一定のラインはキープしたいと考えているのですが。どうですか？
山﨑：同じ悩みはあります。結局学年任せになってしまい、学年の意識の違いもあります。例えば平和学習をするよとなると前年度踏襲になってしまいがちだが今の子どもたちに必要なことをするように、マニュアル化するのにも問題があると考えている。３年間見通したテーマをつくり、各学年で担当者を作っていくようにしている。昨年度はＳＤＧＳがテーマだったのですが、担当が校外学習につないでいく。水に関するスペシャリストに座談会を実施したり、水族館と交渉してバックヤードを見せてもらう。教育ついては文科省を訪ねて話を聞くなど枠組みはあるがマニュアル化しないほうがよい。
熊坂：外とつながることは効果がありますね。発表がありました「ととのう」サウナのドリンク会社の話を少し、山口さんはＯＢとして在校生にお話ししていただく機会があった。「やればできる」失敗したけどチャレンジしていく話があった。生徒も共感する生徒がある。熱い思いをもっている方です。
もっとお話ししたいところですが、今日ご用意した資料をご紹介します。
ピンクの冊子は学校要覧です。黄緑色の付箋が学校目標の設定になります。
この内容について３月に振り返りさせていただきます。定時制も同様になります。
新聞記事もお渡ししましたが、地震峠の漫画製作の成果が漫画になりました。相模原市にも寄贈させていただきました。後ほど新聞記事もご覧ください。
今日のレジメの裏面をご覧ください。津久井高校のトピックスですが、この夏以降注目して

いただいた取り組みがあります。１番目は先ほどご覧いただいた漫画研究部の活動ですが、他にも 11 月 23 日に東京家政学院大学で課題研究発表会に参加し、交通安全に関する生徒の発表をさせていただき良い機会になりました。3 番目に交通安全教育で表彰を受けた。自転車通学のヘルメット着用を義務付けました。命を守る行動を行う大切な取り組みになっています。5 月に本校の生徒も自転車の大事故を起こしたことをきっかけに 2 学期から「命を守る」ということで始めました。ちなみに今週月曜日に津久井警察署の方とお話したのですが努力義務ではなくて義務にしてもいいのではと聞いたところ、自転車の利用者は子どもから大人まで幅広いので「義務」にはしにくい。バイクは免許のとれる年齢が決まっているのでできるが自転車はそうもいかない事情があるようです。
加藤：自分で動けるようになったところからヘルメットを義務化することで当たり前になるのではないかと思います。思春期になってからだと嫌だなと思う子どもも多いかもしれませんから、幼い時からヘルメット着用を義務化し、当たり前にやっていくことがいいと思います。
山﨑：中学校は 4 校がマストでヘルメット着用しています。条件を理解されています。
熊坂：今年度は学校説明会では自転車通学のヘルメットは必須だと伝えているので一定のご理解はいただけていると思います。
加藤：学校までの通学中もちゃんとかぶっているかも問題だと思います。ヘルメット着用せずに猛スピードの生徒も見かけます。危ない地点は必ずかぶる指導も必要かと思っています。どのように指導していくか検討する必要性も考えて指導する必要があると思います。
熊坂：実はこの取り組みは学校安全総合支援事業の一環としても取り組んでいます。これは本校と城山高校が一緒に取り組んでいるのですが、本校がメインで地域とタイアップした交通安全の取り組みをしています。その活動が文部科学省の目にとまり、全国で 3 校のうち１校として発表をすることになっています。
熊坂：津久井やまゆり園との交流とＮＰＯ法人「ぽると」との連携についてもご紹介します。数十年来のお付き合いがあり、その都度、お互いに声を掛け合って交流しています。今年は、津久井やまゆり園の文化祭にお邪魔し、吹奏楽部が演奏させていただきました。福祉科も交流を行っています。「ぽると」は「居場所カフェ」として全日・定時ともに毎週木曜日に開いてもらっています。先日は、麻溝台公園の中にポニーの広場とぽるとに話があり、ポニーの乗馬体験を学校の裏の空き地で行い、50 名程度の生徒が参加しました。また機会があればこのような交流もすすめていきたいと思います。ざっとですがご紹介いたしました。
どうですか最後はフリーにお話いただければと思います。林さん何かありますか？
林：やまゆり園には交流ではなく介護実習に行きました。事件以来ようやく再開しました。そのトップバッターに選ばれた生徒は非常に光栄だと喜んでいたのが印象的でした。
熊坂：これからの地域とつながり、私たちだけではでは与えられない学びや発見が生まれたらいいと思います。さまざまなチャンネルを増やしていきたいと思います。今日はこの辺で失礼したいと思います。次回は 3 月実施予定でございます。よろしくお願いいたします。